

## 平成31年度「特色ある学校づくり事業」実践事例

### 佐世保市立三川内小学校

佐世保市口の尾町698番地

校長 園田 俊郎

学級数 8 (特別支援学級2)

児童数187名(令和元年5月1日現在)



### 地域・学校の環境

本校区は、400年の歴史を持つ伝統ある窯業の里であり、三川内山・江永・木原の三皿山を中心として、多くの陶工士が、「三川内焼」の生産にあたっている。陶工士たちは、平戸藩御用窯として育まれてきた窯業文化を受け継ぎ、伝統工芸品である「唐子絵・花鳥山水・透かし彫」等の「三川内焼」の作陶と開発に励んでいる。

豊かな自然にも恵まれ、歴史と伝統を受け継ぐ、すばらしい教育環境に学校がある。

「あったか三川内」を合言葉に、家族的な温かい雰囲気の中で、素直で純朴な児童が、仲よく健やかに学校生活を送っている。地域住民の学校教育に対する期待と関心は非常に高く、学校の教育活動に対し、大変積極的に、熱心な協力や支援をいただいている。

地域の関係機関・団体と協力・連携を図りながら、学校・家庭・地域が一体となって、様々な取組や諸活動を展開し、「地域ぐるみで子育て」「ふるさと三川内を愛する絆づくり」の推進に取り組んでいる。

### テーマ 「郷土を知り、郷土を愛する心豊かな児童を育てる」

### 目的

- 郷土の伝統産業である窯業文化を学ぶ学習
- 郷土の豊かな自然環境を知り、自然の浄化作用を学ぶ環境学習
- 地域の人々とのかかわりを通じた福祉学習
- 豊かな人間性をはぐくむ基礎となる学力の充実
- 学校を拠点とした地域教育力活用による「開かれた学校」づくり



## 実践内容

### 1 「交流」体験活動…地域の方々とふれ合う活動に、積極的に取り組んだ。

- ① 保育園との交流活動・自然体験学習…1年生は三川内保育園・江永保育園の園児を招いて、砂場での造形遊び、昔遊び等の交流学习を行った。3年生は小森川の水生生物を調べ、追究する課題を設定した。自分よりも年少者との関わりを通して、相手を思いやる心を育てることができ、2月の交流会では、進んでかかわろうとする姿が見られた。



- ② 三川内っ子ふれあいタイム……11月19日実施。全校児童が保護者や地域の方々と共に、様々な活動を体験し、交流を深めた。当日は、多くの来校者で大変盛り上がった。午後からの「遊びの達人塾」では、健全育成会を中心とする地域の方々や保護者の方々の指導や協力により昔遊び等、6コーナーを設け、子どもも大人も楽しめる1日となった。



子どもたちは、楽しむと同時に、藁から手際よくしめ縄を作り上げる達人の技や、竹馬やこまの手本を見せてくれる姿を目の当たりにし、自然と「すごい！」という声を上げていた。地域を誇りに思う心情が育ってきている。

- ③ 学校図書ボランティア「WAKU WAKU おはなし隊」…毎週水曜日8:25～8:45各学年の児童へ読み語りをしていただいている。児童は、水曜日を楽しみにしており、読書に親しむ児童が増えている。昨年度より回数を増やし、本に親しむきっかけとなったの

か、今年度の図書貸し出し冊数は目標の2万冊を突破した。

- ④ 三川内音頭…運動会において児童・保護者・地域の方全員で踊る「三川内音頭」の指導を健全育成会婦人部の方に指導していただいた。



毎年踊っている「三川内音頭」ではあるが、婦人部の方に指導していただいた後には、多くの子が進んで手を挙げ、感想を発表することができた。その中には、「ずっと続いている踊りだから、自分たちが守っていきたい。」といった声もあり、地域の伝統を大切にしようとする心も芽生えている。

## 2 「ふるさと三川内」体験探究活動

- ① 三川内の伝統工芸である三川内焼について学年を越えて探究。課題を見つけ、調べ、まとめる活動を通して、ふるさと三川内のよさを改めて実感する学びとなった。

## 3 「栽培・収穫」体験活動…児童は豊かな自然の恵みを味わい、地域の「達人・名人」からの尊さや生産の大切さについて学んだ。

- ① 校区内水田での米作り体験活動…5年生が、地域の「米作り名人」の方々に熱心に御指導いただき、田植え・草取り・稲刈りまでの米作りを体験することができた。
- ② 学校園でのサツマイモ栽培活動…1年生～3年生を中心に、地域の「芋づくり名人」の方々に御指導いただき、芋さしから芋掘りまで体験し、収穫の喜びを味わうことができた。



どちらの取組においても、今まで「当たり前」と思っていたことにも人の手が加わっていること、普段なかなか実感できない「自然の力」の素晴らしさ等にも触れることができた。

#### 4 「おもてなしの心」「かかわり合い」で心豊かに

- ① 手作りのおにぎりや豚汁…5・6年生による11月のふれあいタイムでの取組。いつもお世話になっている地域の皆さんに昼食を提供。児童が作った米を使って、心を込めて「おにぎりや味噌汁」を作り、感謝の気持ちで「おもてなし」した。自分たちが調理し、自分たちで食する家庭科の調理実習とは違い、「相手のために」作る経験は、食べてくれる人のことに思いを馳せる、思いやりの心につながっている。
- ② 異学年とのかかわり…縦割り遊びや集団登下校など、異学年と関わる活動を実施している。様々な立場や年齢の人と関わり、様々な取組を一緒に行うことで、相手の気持ちを察し、考えることができる豊かな心を育てている。



三川内小学校では  
「あったか三川内」を合言葉に  
三川内の地に足を着け、三川内を愛する  
心豊かな児童を育てています！

